

やぶれ傘



一一八号

二〇二二年二月

探梅は鶏の連れ鳴き聞きながら 根橋宏次
 初雪といはれながらに雪を見る きくちきみえ
 冬の蜂人工芝に椅子ふたつ 大島英昭
 暫くは窓開けて見る牡丹雪 廣瀬雅男
 後ろからタンクローリー日短 丑久保 勲
 どことなく癖のある鍵寒の星 青谷小枝
 海鼠囁み阿部完市の句集読む 瀬島酒望
 寒鯉が動く十日の月が出て 藤井美晴
 薪割の薪飛んでいく花八つ手 白石正躬
 枇杷の花にほひ雀の来てゐたる 天野美登里
 焼売に醤油を垂らす年の暮 小山よる
 やがて止むオルゴール聞く炬燵かな 安藤久美子
 隅に水タンク置かれて冬菜畑 渡邊孝彦
 冬銀河光の粒が落ちてきさう 有賀昌子
 野良猫の日と出会ひたる霜の朝 秋山信行

抄集句傘紀 大崎

プレゼントもらふこどものサンタさん 松村光典
 初明り厨より時動き出す 武藤節子
 枯野から遠く高層ビルを見る 湯本正友
 和菓子屋の暖簾柿色秋深し 浅嶋 肇
 煮凝りの魚の眼玉を箸にとり 石原健二
 湯豆腐のふるふ豆腐を掬ひとり 泉 一九
 雪が降る昭和の歌のひと節を 岩藤礼子
 跨線橋冬満月を横に見て 奥田温子
 葉牡丹の置かれしところ良く掃かれ 木村瑞枝
 自転車の大根の葉のゆさゆさと 小巻若菜
 米一合炊く支度して今朝の冬 齋藤朋子
 獄中にまだ中核派冬に入る 柴崎和男
 茶の花や坂をのほれば旧駅舎 高橋 均
 胸もとの赤子の温み冬に入る 竹内文夫
 赤べこの首ふつてゐる春隣 貫井照子

空つ風

大崎紀夫

ぶらぶらと犬のふぐりの行く小春
座布団をぼんと叩けば楳埃
電球の笠を見ながら蕎麦湯のむ
十二月八日の蠅が壁にゐる
終点の空のあかるさ空つ風

寒に入るこの木あの木でからす鳴き
霜柱踏んでは道にもどりくる
空つ風ミットを逸れし球がくる
汲みおきし馬穴の水が凍りゐる
くつついて落葉二枚が流れゆく
雪もよひ昼は塩パン一個食ひ
春近し橋まで土手の道を行き

探梅

根橋宏次

伐採の跡がぽかんと山眠る
 噛みきれぬ海鼠が口の中まはる
 老酒にざらめ溶けゆくクリスマス
 十ほどを数へてふくら雀田に
 暖房車海岸線を離れけり
 翌あす 桧なろの柱が匂ふしづり雪
 浮寝鳥数へ直されゐたりけり
 春隣水より亀の首が出て
 使ふほどふくらむ「季寄せ」冬木の芽
 探梅は鶏の連れ鳴き聞きながら

初雪

きくちきみえ

焼く芋を軍手で割つてくれにけり
 風花の海へ出てゆくいま途中
 ちやぶ台の真中にケーキクリスマス
 厨まで海鼠一匹連れてくる
 焼き網のここに置く年の餅
 寒さうな色のマフラーしてスマホ
 裸木を中心に置くロータリー
 それぞれに吹いてはすする根深汁
 人日の飴の包みは鶴になり
 初雪といはれながらに雪を見る

冬すみれ

大島英昭

のぼりからいつか下りに木の葉雨
虎落笛「風姿花伝」が見あたらぬ
バス停にバスがきてゐる冬すみれ
冬の蜂人工芝に椅子ふたつ
木の影が近づいてくる冬日向
鮮魚屋の前に自販機年の暮
影ならべ五台が駐車からつ風
松過ぎに水道屋きて直ぐかへる
川下の橋をバス行く雪もよひ
曲がつてもなほ三丁目日脚伸ぶ

牡丹雪

廣瀬雅男

パソコンに日差しが届く十二月
紅色を残し鶏頭枯れにけり
冬ざれの野川に魚の跳ねにけり
提灯を灯して帰る焼き芋屋
笹子鳴くお稲荷さんに登る道
老妻と電気こたつを組み立てる
初詣力石にて休みけり
今年また妻と二人や鏡餅
人の日やエレベーターはひとりづつ
暫くは窓開けて見る牡丹雪

春隣

丑久保勲

後ろからタンクローリー日短
冬菊に陽の当たりぬる日曜日
植木屋が来てゐる庭の実万両
自転車に油を差してゐる小春
指でほどくギフトのリボン掘炬燵
数へ日のマグカップにはアメリカン
罅割れの親指舐めてゐる日向
読初はガラス戸の陽を浴びながら
鬼怒川を渡つてもなほ冬田中
ごみを出す朝は快晴春隣

掘炬燵

青谷小枝

ぶだうもみぢワイン五六種試飲して
小三治を聞いて師走の街へ出る
雪吊の影ある池を時に風
掘炬燵雑誌「りぼん」を回し読み
熊を煮るワインどぼどぼつぎ入れて
冬灯ふるき堆朱の朱肉入れ
枇杷の花抱かせてもらふ隣の児
鳥に撒くパン屑白しお元日
どことなく癖のある鍵寒の星
乳牛の乳房の血筋春近し

海 鼠

瀬島酒望

枯れ薄 東京湾が見えてきた
海鼠 噛み阿部完市の句集読む
コードレス掃除機置かれ冬座敷
冬田打ちはじめてゐたり流れ雲
襟巻を振りて渡しを呼ぶ矢切
冬薔薇消えゆく雲を見てゐたり
トラツクが空荷で戻る大晦日
鳥総松陽だまりに猫寝そべつて
ちろりより鱈酒に酒足しにけり
万両や木つ端燃しゐるドラム缶

寒 鯉

藤井美晴

寒ひでりどこかでガラス割れる音
クリムトのコピーのわきの冬の薔薇
寒鯉が動く十日の月が出て
戦闘機過ぐ蠟梅のほふ昼
白い帆があんなに傾ぎ冬の海
冬風の干竿に棕鳥むきてとまる
冬ともし映る机上の四合瓶
北風渡るメタセコイアをしならせて
十字路の右から冬の紋黄蝶
青空を山毛櫨の枯葉が飛んで行く

小 六 月 即 身 仏 に 逢 ひ に ゆ く
置 炬 燵 皿 に こ ん も り 柿 の 種
昼 か ら の 雨 降 り 続 き の つ ペ 汁
茨 線 に 絡 み し ま ま の 枯 葎
隙 間 風 入 口 出 口 あ る ご と く
新 年 の 揚 げ 舟 に 風 水 面 に も
御 降 り の あ か る き 夜 と な り に け り
困 碁 盤 に 黒 一 を 置 く 淑 気 かな
風 荒 る る ひ と 日 な り け り 青 木 の 実
枇 杷 の 花 に ほ ひ 雀 の 来 て ゐ た る

枇杷の花

天野美登里

花八つ手

白石正躬

川 べ り に と ん び 二 羽 ゐ る 小 六 月
白 菜 を 四 つ 割 り に し て 干 し に け り
ひ と 抱 へ ほ ど の 大 根 持 ち 帰 る
悴 む 手 尻 で 温 め る 会 議 室
薪 割 の 薪 飛 ん で い く 花 八 つ 手
隣 家 へ 焚 火 の 煙 流 れ ゆ く
年 明 け の 雀 の 声 が 大 き く て
初 乗 り の 車 の 鍵 の 鈴 が 鳴 り
鏡 餅 う す く 埃 を か ぶ り を り
鏝 阿 寺 に 鳩 鳴 い て ゐ る 雪 催 ひ

二日

小山よる

蓮の骨池の向かうに没りゆく陽
着膨れてゐても美男とわかりけり
微動だにせず蒲団の中にある
マフラーを綺麗に畳み席につき
焼売に醤油を垂らす年の暮
歳時記を何遍も読む二日かな
かぴかぴに乾くタオルや冬の暮
靴下に穴開きさうな春隣
暖房の風の音だけする小屋
蕎麦すすする人と目の合ふ四温かな

手袋

安藤久美子

数の子を銘銘皿の真ん中に
葛飾の南の空にオリオン座
厳冬やトリアージなる言葉聞く
やがて止むオルゴール聞く炬燵かな
手袋を外し小さき手と出会ふ
大寒の街の更地にシヨベルカー
各々の鍋焼鰻鮎音立てて
川岸の草の日向に寒すずめ
水底に魚の影を冬の池
寒鴉鳴くヒマラヤ杉の天辺に

冬菜畑

渡邊孝彦

暮れてゆく道沿ひ石路がぽつぽつと
坂上で道折れ曲がり芒枯れ
暮るる川に鴨ごろごろと石のごと
隅に水タンク置かれて冬菜畑
大空に冬至の月と星一つ
竹箒師走の理髪店前に
元日の夜の星数へきれぬほど
走り根に囲まれ冬の草二寸
水仙がホース格納箱脇に
藁苞を日差しが洩るる寒牡丹

冬銀河

有賀昌子

巻き尺のいつきに戻る十二月
がら空きの電車が停まる冬夕焼け
枯れきつて白き木肌のひと木あり
テノールで歌ふ牧師の冬帽子
冬の夜鯖の味噌煮がよくできて
暮れ早し隣家も四時に雨戸引く
無理きかぬ齢と思ふ帰り花
亡き父の笑顔が浮かぶ冬椿
折込のチラシは重し年の暮
冬銀河光の粒が落ちてきさう

霜の朝

秋山信行

冬うらら河馬は小耳をふるはせて
しぐるるや孫と向き合ふ将棋盤
冬凪いで雑魚の群れゐる忘れ潮
父母の写真に供へ水仙花
谷間を日のうつりゆく冬紅葉
菜園に陽だまり生るる冬の蝶
用もなく畑に来てゐる年の果
野良猫の目と出会ひたる霜の朝
浜風や異人の墓に散る枯葉
庭隅に石か仏か実千両

年の暮

松村光典

紅葉を求め歩いて日の終はる
小春日や背中丸めて居眠りす
山茶花を窓の向こうに散髪す
陽を浴びて枯れ葉の路を歩きけり
公園の落ち葉の山に潜る子ら
紅い花多い気のする冬の路
冬夕焼け背にマンションの黒々と
プレゼントもらふこどものサンタさん
境内の枯葉を歩く音軽く
バスに乗り東京巡る年の暮

◇3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	3日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	20日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	27日(土)	AM10:00	楽 天 会	あいパル	廣瀬 雅男
	27日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
4月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	5日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	17日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	18日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	24日(土)	AM10:00	楽 天 会	あいパル	廣瀬 雅男
	24日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

4月18日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所はJR北浦和改札口前。

吟行地は見沼・市立病院の裏東側。

句会場は武蔵浦和コミセン・第1集会室。

◎連絡先

秋山 信行	☎048-874-0555	藤井美晴	☎0422-55-2733
大島英昭	☎048-592-5041	WEP編集室	☎03-5368-1870
廣瀬 雅男	☎048-443-7522	丑久保 勲	☎048-853-3856